

安 全 デ ー タ シ ー ト

整理番号 TNI 00596

作成日 2005/12/1

最終更新日 2015/1/1



1. 化学物質及び会社情報

会 社 : 大陽日酸株式会社
 住 所 : 〒142-8558 東京都品川区小山 1-3-26 東洋 Bldg.
 担当部門 : SI 事業部 担 当 者 : 平 博 司
 電話番号 : 03-5788-8695 FAX 番号 : 03-5788-8710
 緊急連絡先 : SI 事業部 (電話番号 03-5788-8550)
 メールアドレス : Isotope.TNS@tn-sanso.co.jp
 ホームページアドレス : <http://stableisotope.tn-sanso.co.jp>

 化学物質 酸化バナジウム

製品名 五酸化バナジウム、バナジウム - 50V (酸化物)

＊ 安定同位元素で標識された化合物は、標識核種及び位置により製品名称が異なりますが、安全性データは非標識化合物と同一とみなします。従って、特に指定しない限り本シートに記載されているデータは、非標識化合物のデータを採用しています。

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

物理化学的危険性：	火薬類	分類対象外
	可燃性・引火性ガス	分類対象外
	可燃性・引火性エアゾール	分類対象外
	支燃性・酸化性ガス	分類対象外
	高压ガス	分類対象外
	引火性液体	分類対象外
	可燃性固体	区分外
	自己反応性化学品	分類対象外
	自然発火性液体	分類対象外
	自然発火性固体	区分外
	自己発熱性化学品	区分外

健康に対する有害性：	水反応可燃性化学品	区分外
	酸化性液体	分類対象外
	酸化性固体	区分外
	有機過酸化物	分類対象外
	金属腐食性物質	分類できない
	急性毒性（経口）	区分 2
	急性毒性（経皮）	分類できない
	急性毒性（吸入：ガス）	分類対象外
	急性毒性（吸入：蒸気）	分類対象外
	急性毒性（吸入：粉じん、ミスト）	区分 4（粉じん）
	急性毒性（吸入：粉じん、ミスト）	分類対象外（ミスト）
	皮膚腐食性・刺激性	分類できない
	眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分 2A
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	分類できない
	生殖細胞変異原性	区分 1B
	発がん性	区分 2
	生殖毒性	区分 2
	特定標的臓器・全身毒性（単回ばく露）	区分 1（呼吸器、血液系、肝臓、腎臓）
	特定標的臓器・全身毒性（反復ばく露）	区分 1（呼吸器、血液系、神経系、肝臓）
環境に対する有害性：	吸引性呼吸器有害性	分類できない
	水生環境急性有害性	区分 2
	水生環境慢性有害性	区分 2

ラベル要素

絵表示又はシンボル：



注意喚起語： 危険
 危険有害性情報： 飲み込むと生命に危険（経口）

吸入すると有害（粉じん）

強い眼刺激

遺伝性疾患のおそれ

発がんのおそれの疑い

生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い

呼吸器、血液系、肝臓、腎臓の障害

長期又は反復ばく露による呼吸器、血液系、神経系、肝臓の障害

水生生物に毒性

長期的影響により水生生物に毒性

注意書き：

【安全対策】

すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。

使用前に取扱説明書を入手すること。

この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。

個人用保護具や換気装置を使用し、ばく露を避けること。

保護眼鏡、保護面を着用すること。

屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。

粉じん、ヒュームを吸入しないこと。

取扱い後はよく手を洗うこと。

環境への放出を避けること。

【応急措置】

吸入した場合：空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

眼に入った場合：水で数分間、注意深く洗うこと。コンタクトレンズを容易に外せる場合には外して洗うこと。

ばく露又はその懸念がある場合：医師の診断、手当てを受けること。

飲み込んだ場合：直ちに医師の診断、手当てを受けること。口をすすぐこと。

眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。

気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。

漏出物は回収すること。

【保管】

施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処

理業者に業務委託すること。

3. 組成・成分情報

.....	単一の化合物
化学名	酸化バナジウム
別名	五酸化バナジウム
含有量	95.0%以上（PRTTR法含量表示99%）
化学式又は構造式	V_2O_5
官報公示整理番号	化審法：（１）－５５９
CAS番号	1314-62-1
国連分類番号	6.1
国連番号	2862

4. 応急措置

目に入った場合	清浄な水で最低15分間眼を洗浄した後、速やかに医師（できれば眼科医）の手当てを受けること。
皮膚に付着した場合	汚染された衣服を脱がせ、多量の水かシャワーで皮膚を洗い流す。
吸入した場合	濃厚なヒューム、粉塵を吸入した場合は、被災者を空気の新鮮な場所に移動させる。安静にし、医師の診断を受ける。
飲み込んだ場合	多量の水を飲ませ、吐かせ（意識のある場合のみ）、安静にし、医師の診断を受ける。

5. 火災時の措置

消火剤	水、粉末、炭酸ガス、泡等全ての消火剤の使用が可能である。
消火方法	可燃性はない。一般には、散水、消火剤で消火する。
消火活動上の注意事項 ..	消火作業の際には保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

.....	作業の際には保護具、呼吸用保護具（防塵マスク等）を着用し、粉塵を皮膚に付着させる、又は吸入する等がないようにする。漏洩物質を掃除機で吸引する。残留分を注意深く集め、安全な場所に移す。
-------	---

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	必要に応じ、防塵マスク、ゴム手袋を着用すること。目に入った時、又は皮膚に付いた時は、速やかに水で十分洗うこと。取扱い
-----------	--

後は手洗い及びうがいを十分に行うこと。作業時等に付着した場合、その汚れを良く落とすこと。

保管 …………… 室内に室温にて貯蔵する。

8. 暴露防止及び保護措置

管理濃度 …………… Vとして 0.03 mg/m³

許容濃度 …………… 日本産業衛生学会：0.05 mg/m³ (Vとして)
0.1 mg/m³ (ヒューム)
0.5 mg/m³ (粉塵)

ACGIH (1990-91年度版)：

TLV (Vとして) 0.05 mg/m³

USSR (1979年)：

PDK (Vとして) 0.1 mg/m³

保護具 …………… 【呼吸用保護具】防塵マスク。

【保護眼鏡】側板付き普通眼鏡又はゴーグル型。

【保護手袋】ゴム手袋など。

【保護衣】保護衣類、安全靴。

設備対策 …………… ヒュームや粉塵の発生源には、密閉式の設備又は局所排気装置を設ける。作業場は換気を十分に行う。

9. 物理及び化学的性質

外観等 …………… 斜方晶系の黄赤～黄褐色粉末。

沸点 …………… 1750℃ (分解)

融点 …………… 690℃

比重 …………… 3.36 (常温)

溶解度 …………… 水：0.8 g/100 ml (20℃)

アルコールに不溶、酸に可溶。

蒸気圧 …………… データなし。

引火点 …………… データなし。

発火点 …………… データなし。

爆発限界 …………… データなし。

その他 …………… アルカリに溶け、バナジン酸アルカリとなる。

10. 安定性及び反応性

…………… 通常の使用条件で安定。

11. 有害性情報

急性毒性	結膜と気道粘膜の刺激症状。
気管 ラット	LDL0 25 mg/kg
吸入 ラット	LDL0 70 mg/m ³ ・2hr
経口 ラット	LD50 23 mg/kg
刺激性	結膜と気道粘膜の刺激症状あり。
皮膚腐食性	データなし。
感作性	アレルギー性発疹を起こす恐れあり。
亜急性毒性	データなし。
慢性毒性	結膜と気道粘膜の刺激症状。
がん原性	データなし。
変異原性	バチルス 500 mmol
生殖毒性	マウス TDLO 10900 mg/kg
催奇形性	データなし。

12. 環境影響情報

分解性	データなし。
蓄積性	データなし。
魚毒性	データなし。

13. 廃棄上の注意

.....	廃棄物処理業者に委託する。
-------	---------------

14. 輸送上の注意

.....	転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れ防止を確実に行う。漏洩しない状態での陸上輸送なら問題ない。
-------	---

15. 適用法令

PRT法	第1種指定化学物質
労働安全衛生法	特定化学物質第2類物質、管理第2類物質 名称等を通知すべき有害物 名称等を表示すべき有害物 作業環境評価基準
毒物及び劇物取締法	劇物
消防法	貯蔵等の届出を要する物質
航空法	毒物類・毒物

船舶安全法 毒物類・毒物
労働基準法 疾病化学物質

16. その他の情報

【参考文献】

化学品法規制検索システム 日本ケミカルデータベース
GHS 仕様モデル SDS 中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター

- * この安全データシートは、各種の文献などに基づいて作成していますが、必ずしもすべての情報を網羅しているものではありませんので、取扱いには十分注意して下さい。また、含有量、物理及び化学的性質、危険有害性などの記載内容は、情報提供であり、いかなる保証をなすものではありません。なお、注意事項は通常の実用を対象としたものであり、特殊な取扱いをする場合には、その用途・用法に応じた安全対策を実施して下さい。